

資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録
2015年度 第10回

報告題名 (title) : ボランティア活動をする若者とキャリア志向の関係について	
報告者 (name) 青木 雄太	日時 12月 24日 午後3時~
所属分野 (labo) フィールド社会技術学	場所 第5講義室
座長 黒岩 直人	議事録担当者 石塚 修敬
出席者 (敬称略) 教員：伊藤、石井、水木、米倉、冬木、高篠、盛田、木谷、小山田 学生：西田、金、武居、佐藤、吉田、Tian、千葉、嶋倉、秀、李、黒岩、青木、石塚、ソリゴガ、チリゲル、唐、趙	
報告要旨 (Abstract) 日本の大学生に特有の「モラトリアム人間」という概念が小此木(1977)により提唱されてから、アイデンティティやそれに付随する職業選択に関する研究が数多くなされてきた。アルバイトやインターンが学生のキャリア形成に役立つことを示す研究も多くなされてきた。しかし、ボランティア活動においては東日本大震災などで大きな注目が集まったのにも関わらず未だに事例研究の域を出ない。今回は主にボランティア活動の「地域性」という点に着眼し、学生のキャリア選択志向を検討することによってボランティア活動が学生のキャリア形成、アイデンティティ形成にいかに関与しているかを検討した。ボランティア活動の定義は①10人以上のメンバーで活動を定期的に行っている②主体的な運営を学生が行っている③無給である(経費の支払いは可)に当てはまる団体での活動に限定した。調査対象はボランティア活動に従事していない一般学生(データ数 36)と、農家支援系の団体 A(33)、高校生向けの学習支援系団体 B(39)。直接配布直接回収のアンケート調査を行った。	

質疑・応答(Q & A) 敬称略

小山田「主成分分析をしたと書いてあるが、重回帰分析ではないか。目的変数を設定し、達成動機を説明変数にし、重回帰を行ったという流れになるのではないか」

青木「やっていることは変わらないと思う」

小山田「違う。結果の解釈が不明だ。アンケートを見ても、変数が膨大にあるので、それを簡潔にでも説明しないことには解釈ができない」

青木「再考する」

高篠「今の質問に関連するが、行いたかったのは重回帰分析か」

青木「主成分分析である」

高篠「主成分分析は、幾つかの変数から、それをまとめたようなひとつの指標を作り、それを更に分析するものであるが、それを行いたかったのか」

青木「主成分分析については、被説明変数に対してそれぞれの変数がどれくらいの寄与率を出しているのかを明らかにする方法と理解している」

高篠「主成分分析に被説明変数は無い。この結果では、やりたいことがやれていないので重回帰分析で再度やるべきではないか。」

青木「再考する、ご指摘感謝する」

冬木「結論の項を見るにかなり普遍的なことを言おうとしているように思える。調査サンプル（2団体＋一般学生36名）に代表性はあるのか、あるとすればその事を説明する必要があるのではないか。例えば、一方の震災復興支援団体はともかく、もう一方の教育支援系団体にも（設立が震災以前とはいえ）被災地の子の為という動機があるのではないか。バイアスがかかっているように思える。結論に“ボランティアは職業選択に影響を与えない”と書いてあるが、それはこういう時期（震災後）にこういう活動に参加し始めた人から出てきた回答かもしれない。再考するか、代表性があることを説得的に論じるべきである」

青木「一度整理する」

米倉「分析方法について質問する。各変数は調査票のデータから得ているものか」

青木「そうである、記載が不十分であった」

米倉「“達成動機”や“自己効力感”がアイデンティティの重要な指標になると書いてあるが、こういったものは観察可能な指標ではない。そもそも、観察可能なデータに主成分分析を用い、スコアが算出され、それを“達成動機”や“自己効力感”として解釈ができると、そこで初めて言うことが可能になる。疑問の一つに、変数として何を使ったのかが不明瞭であるという事。“達成動機”や“自己効力感”に関して、その変数は独自の解釈なのか」

青木「測定手法としては確立されている。配布資料に記載が不十分であった」

米倉「どのように計算したのか、アンケートのデータから得たのか」

青木「アンケートから得ている。こういったことを測定するアンケート自体を作成している論文があり、それを参考とした」

米倉「変数の出し方はそれに準拠したということか」

青木「そうである」

米倉「理解した。しかしそうであっても、分析手法は主成分分析ではなく重回帰分析を用いているのではないか。主成分分析は座標軸を回転させることによりスコアが変わり、そのスコアをどう解釈するかというものだ。単純な変数とは違う、解釈された新しいスコアで評価することができる。そうすると“達成感”などの抽象的なものによる評価が出てくるのだと思う。しかしそれは分析による解釈を通して得るものであって、そうした作業が報告中に全然されていないように思える。その上で、“回避”や“延期”などの基本的な概念がキャリア形成といった職業観にどう影響しているかという議論が資料に説明されていない。肝心の課題には何も答えられていなかったと感じざるを得ない」

青木「承知した。ご指摘感謝する」